

群 教 七	F09 - 01
	平25.251集
	教育相談

自己肯定感を高め、 互いを認め合う人間関係づくり

— 3者連携ノートの活用と児童同士のつながりを深める
学級活動の実践を通して—

特別研修員 川村 滋子

I 主題設定の理由

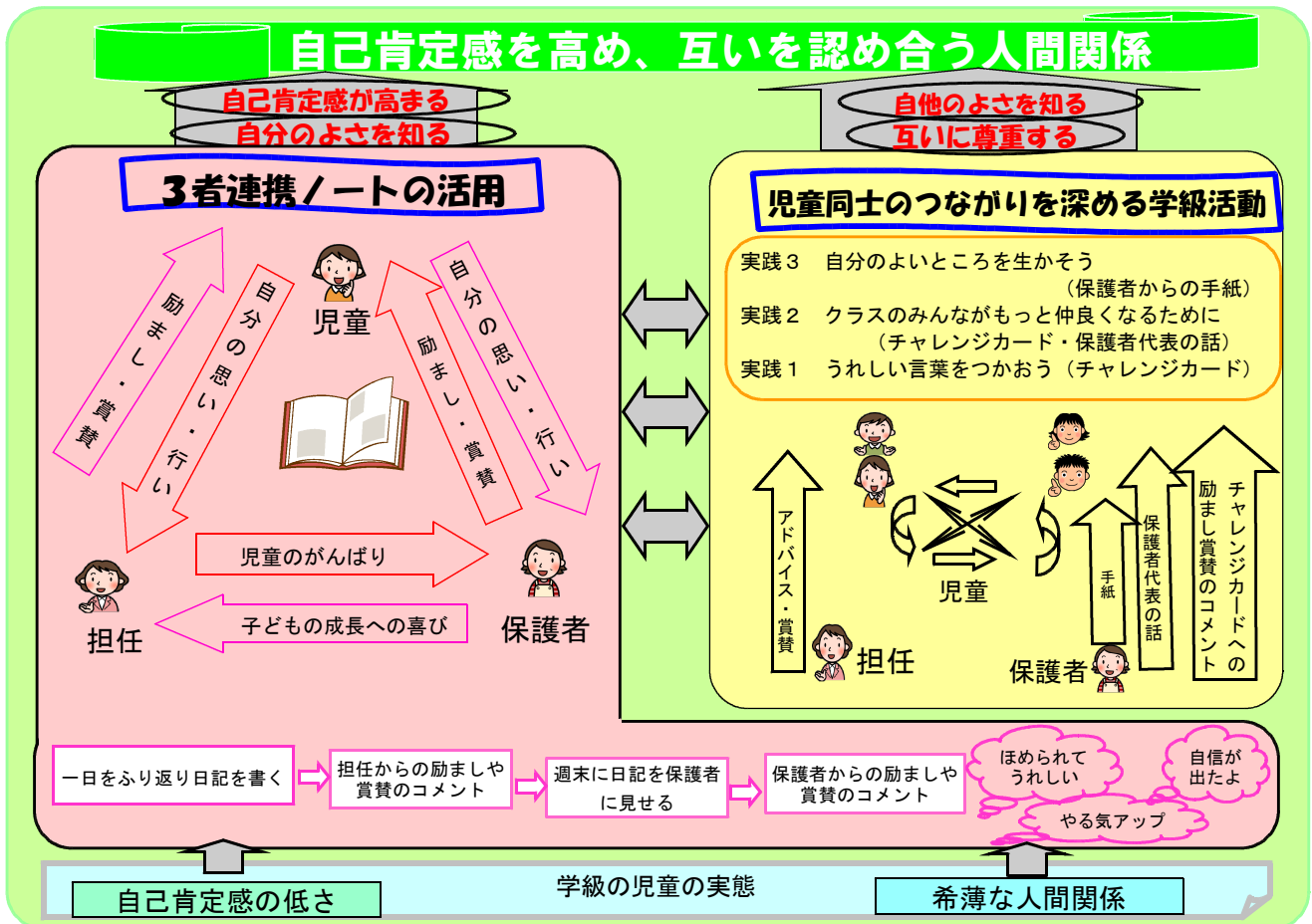
人とかかわりが減少し対人関係能力が育まれにくくなっている今日、学校生活において人とかかわり方について考え、互いを尊重し、よさを認め合う人間関係を形成していくことが必要であると考える。

本学級の児童（5年）は男女分け隔てなく仲がよい。児童一人一人よさをもっているが、自分のよさに気付けずに自信がもてない児童も見られる。自分のことで精一杯で相手のことまで考えられないため、児童同士のつながりは薄いと感じる。また、思いついたままに言葉を発したり余分なことを言ったりしてトラブルになることがある。

このような実態から、まずは、児童が自分のよさに気付き、自己肯定感を高めていく必要があると感じた。児童の自己肯定感を高めるには家庭の協力が不可欠と考え、児童・担任・保護者をつなぐ3者連携ノートを活用することとした。これにより、児童が認められていることを実感し、安定した気持ちの上で、児童同士のつながりを深める学級活動を実践し、自他のよさをさらに知り、互いを認め合う人間関係をつくりたいと考え、本主題を設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手だて

3者連携ノートにより個々の児童の自己肯定感を高め、心の安定をはかりつつ、児童同士のつながりが深まるような学級活動を実践し、互いを尊重する人間関係をつくれるようにした。

「クラスみんながもっと仲良くなるために」において以下のような手だてで授業実践した。

実践2における研究上の手だて

- 話し合いで、考えを共有、検討。 ○保護者代表の話。
- 実践のめあての決定・チャレンジカードへの記入。

本題材では、クラスみんながもっと仲良くなるために大切なことを話し合う活動を通して、これからの自分のめあてを決めることをねらいとしている。「大切なこと」について検討することで相手のことを思いやる気持ちが大切であることに気付くことができた。保護者代表に人とかかわる時に気を付けていることや児童のこれからの行動に期待しているという話をしてもらうことによって、「みんながもっと仲良くなるために」という児童の気持ちをさらに高めることができた。その後、チャレンジカードに気持ちのめあてと行動のめあてを分けて書かせた。気持ちが大切であることを意識して、実践へ結びつけることができた。

学級活動「自分のよさを生かして」において以下のような手だてで授業実践した。

実践3における研究上の手だて

- ミニグループでの児童の交流。 ○保護者からの手紙。
- 実践のめあての決定・短冊にへの記入。

本題材では、友達と互いのよさを伝え合う活動を通して、自分のよさを生かした「みんなのためにできること」についてめあてを決めて、実践していくことをねらいとしている。ミニグループでお互いによいところを伝え合うことで自分のよいところに気付き、自分のよいところについて書かれた保護者からの手紙を読むことで自分のよさを生かしていきたいという気持ちを高めることができた。そして短冊にめあてを書かせたことで児童は意欲をもち実践へと結び付けた。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 3者連携ノートの活用を通して、児童は担任や保護者から認められていることを実感し、自己肯定感を高めることができた。
- 話し合ったことやミニグループでの活動をもとに自分なりのめあてを決めさせ、チャレンジカードや短冊に書かせたことは目標を明確にし、そのことを意識して行動しようという気持ちを高めることができた。めあての実践を通して、児童同士のつながりを深め、互いを認め合う人間関係をつくることにつながった。
- チャレンジカードへのコメントや児童への手紙など、授業において保護者にかかわってもらうことで児童の自信ややる気の向上が見られた。
- 児童が自己肯定感を高め、心の安定が図られた上での学級活動の実践により、児童はさらに自分や友達によさに気付き、つながりを深め、互いに認め合う人間関係をつくることができた。

2 課題

- 保護者が協力的であったが、児童の自己肯定感を高めるといった目的を常に保護者へ意識してもらえるように担任の意図を上手く伝えて、協力してもらうことが課題である。

3 提言

- 互いを認め合う人間関係をつくるために、まずは、個々の自己肯定感を高め安定した気持ちの上で、児童同士のつながりを深めていく活動をする。

IV 実践及び改善の実際

実践2

1 題材名 「クラスみんながもっと仲良くなるために」（5学年・2学期）

2 本題材及び本時について

本題材では、クラスみんながもっと仲良くなるために大切なことを話し合う活動を通して、これからの自分のめあてを決めることをねらいとしている。学級の問題を把握し、「クラス全員みんなが」ということを意識させるようにする。「クラスみんながもっと仲良くなるために『大切なこと』」について考えを共有し、検討することで、行動の内側にある相手のことを思いやる気持ちが大切であることに気付かせたいと考えた。相手のことを思いやる気持ちをもって相手に接することで、互いに認め合う人間関係をつくることにつながると考え、本題材を設定した。

3 授業の実際（授業参観で実施）

導入の段階で、クラスの間人間関係で良いところ、気になるところについてのアンケート結果を提示した。気になることは「ない」と答えた児童が学級の半数程度いたが、「一人でも友達関係で気になることや嫌なことがあってはいけないと思う」という担任の思いを話した。話を聞く児童の表情から、学級の問題について考えたいという気持ちが読み取れた。そこで本時のめあて「クラスみんながもっと仲良くなるために『大切なこと』を話し合おう」というめあてを提示した。

一人一人が事前に考えておいた「大切なこと」を発表した。そして出された「大切なこと」でどれが大事だと思うか理由をつけて発表させた。理由（気持ち面）を大事にしたかったので色チョークをつけて板書したりハート型の掲示物を貼ったりすることで視覚的に強調した。（図1）

話し合いで、考えを共有、検討（一部）

S1：悪口をいわないことが大切だと思います。理由は傷つくからです。

T：誰が傷つくの。

S1：悪口を言われた人です。

S2：～君と同じで悪口を言わないことが大切だと思います。理由は言われた人が嫌な気持ちになるからです。

S3：笑顔が大切だと思います。理由は笑顔でいると嫌な気分の子がいなくなるからです。

T：みんなが嫌な気分でなくなるということは？

S3：みんなが楽しくなる。いい気分になります。

S4：間違いを笑わないが大切だと思います。理由は言われた人が傷つくからです。

S5：友達のよいところを見付けるが大切だと思います。理由はよいところを見つければどんどん仲良くなれるからです。

T：よいところを見つけて、そのことを伝えてもらったらどんな気持ちになる？

S5：うれしいです。

S6：よいところを言った自分もうれしい気持ちになります。



図1 板書

児童から出された理由を一つ一つ取り上げ、ハート型の掲示物を貼り、みんなが仲良くするために大切なことは、相手を思いやる「気持ち」が大切であることを確認していった。その後、「互いに思いやりの気持ちをもって友達と接し、もっとみんなが仲良くなるようにしようという気持ち」をさらに高めさせるために保護者代表に話をしてもらった。

保護者代表の話（要点）


P1：普段から心がけていることは相手の立場に立ってお互いが気持ちよく過ごせるようということです。今日勉強した心が大切ということを出しながら、クラスみんながもっと仲良くなれるように過ごしてほしいと思います。

P2：自分のことを大切に思うのと同じように相手も大切にすれば、その相手もまた自分のことを大切にしてくれます。そのようにしていけばさらによいクラスになるとと思います。

気持ちを高めさせたところでチャレンジカード（図2）に気持ちと行動の自分なりのめあてを書かせ発表させた。

実践のめあての決定・チャレンジカードへの記入（一部）

心のめあては「相手の気持ちを考える」です。
行動のめあては「友達のよいところを見つける、笑顔でいる、自分から声をかける」です。



心のめあては「もし自分だったらと考える」です。
行動のめあては「自分から声をかける、間違い笑わない、悪口を言わない」です。

心のめあては「思いやりをもつ」です。
行動のめあては「友達に声をかける、友達のよいところを見つける、悪口を言わない」です。

心のめあては「相手の立場になる」です。
行動のめあては「悪口を言わない、こそこそ話をしない、自分から声をかける」です。

図2 チャレンジカード

児童はめあてにそって1週間実践に取り組み、チャレンジカードを家に持ち帰り、保護者から励ましの言葉もらった。チャレンジカードは3者連携ノートに貼って、いつでも振り返れるようにした。また、授業の感想を3者連携ノートに書かせた。

4 考察

- みんなで話し合い、考えを共有、検討したことは「学級の問題を自分たちで考えたという充実感」や「そのことを実行していこうという気持ち」をもたせることができた。
- 話し合ったことをもとに自分なりのめあてを決めさせ、チャレンジカードに書かせたことは目標を明確にし、「クラスみんながもっと仲良くなるために」を意識して行動しようという気持ちを高めることができた。思いやりの気持ちをもち相手と接することは児童同士のつながりを深め、互いを認め合う人間関係をつくることにつながると考える。
- 保護者に話をしてもらったり、チャレンジカードに取組への賞賛の言葉を書いてもらったりして保護者にかかわってもらったことは児童の自信ややる気の向上に効果的であった。

実践3

1 題材名 自分のよさを生かして

2 本題材及び本時について

本題材では、友達と互いのよさを伝え合う活動を通して、自分のよさを生かした「みんなのためにできること」について自分なりにめあてを決めて、実践していくことをねらいとしている。自分以外の人からよいところを伝えてもらうことによって児童は認められていることを実感し、このことは児童にとって自己肯定感を高める一つのきっかけとなるであろう。ただ単に自分のよさを発見することだけにとどまらず、よさをみんなのため、クラスのために生かしていくことで児童同士が互いのよさをもっと知ることとなるだろう。このことは、互いを認め合う人間関係をつくることにつながると考え、本題材を設定した。

3 授業の実際

導入の段階で、自分のよいところ、自分が学級で役立っているかについてのアンケート結果を提示した。自分によりところがあると答えた児童に対して、学級で役に立っていると感じている児童がとても少なかった。一人一人がみんなよいところをもっているということを話し、そのよいところをもっと出してクラスのために役立ててほしいという担任の思いを話した。そして本時のめあて「自分のよさを生かしたみんなのためにできることを考えよう」というめあてを提示した。

よさを伝え合う活動では、事前に「自分のよいところ」を水色の付箋紙、「友達のよいところ」をピンク色の付箋紙に書かせておいたものを活用した。

ミニグループでの児童の交流

- ・グループ内の番号が一番の児童に、他のメンバーはピンク色の付箋紙に書かれたよさを口頭で伝えて付箋紙を渡す。一番の児童が終わったら次は二番の児童がよさを伝えてもらうようにした。(図3)
- ・同じようなよさが出てきた場合には「～さんと同じで～です」「～さんと似ていて～です」という言い方をさせ、ただ単に付箋紙を渡すだけの活動にならないようにした。
- ・渡された付箋紙はワークシート上に貼らせた。同じような内容のものはそばに貼るようにした。
- ・自分のよいところを書いた水色の付箋紙をワークシート上に足した。友達からもらった付箋紙と同じような内容のものをまとめ、タイトルをつけさせることによって、視覚的にも自分のよさを分かりやすくさせた。

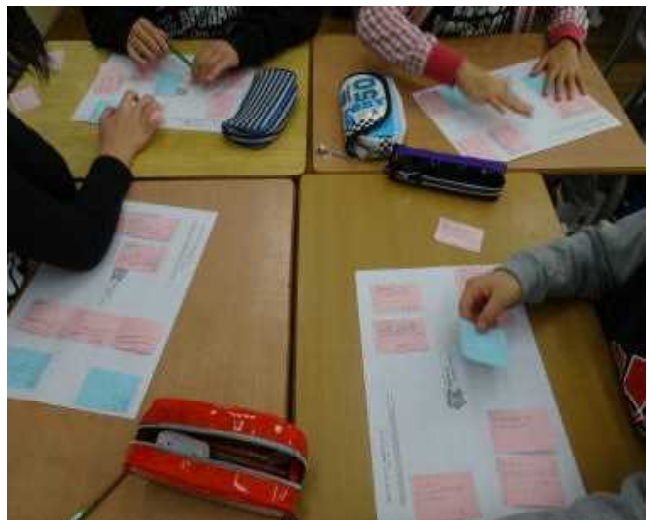


図3 ミニグループでの活動の様子

自分のよさをまとめたところで、事前に「我が子のよいところ」について保護者に書いてもらった手紙を児童に渡した。

保護者からの手紙（図5）

- ・ 児童は照れながらも、嬉しそうに静かにじっくりと家の人からの手紙を読んでいた。
- ・ 保護者が3者連携ノートを通して児童のがんばりに気付いたり、児童の良いところに日頃から目を向けようと意識したりしていたことで、手紙にも我が子の良さがたくさん書かれていた。



図5 手紙を読む児童

学級目標と照らし合わせながら自分のよさを生かした「みんなのためにできること」を考え、短冊に書かせ、掲示した。

実践のめあての決定・短冊への記入

進んで働けるというよさを生かして、自分が給食当番でないときも当番の仕事を進んで手伝い給食の準備を早く終わらせます。

友達にやさしいというところを生かして、みんなに話しかけてみんなが楽しいと思えるクラスにしたいです。

係の仕事やそうじをきちんとやるというよさを生かして自分の担当以外の仕事も進んでします。

ぼくのよいところは発表するとき大きな声を出せるところなので、自分から進んで大きな声であいさつをして、みんなの手本になります。

私のやさしさを生かして、友達によい言葉をかけてみんなが笑顔になれるようにしていきます。

進んで発表できるところがよいところなので、授業中、たくさん手を挙げて授業を盛り上げていきます。

ペア（隣の席）でお互いのめあてを伝え合わせ、その後、より具体的にめあてが考えられた児童に全体の前で発表させた。短冊に書かれた内容を賞賛し一人一人の実践への意欲を高めるようにした。さらに互いのよさを認め、伸ばしていけるような人間関係を築いていくように助言した。

本時後、3者連携ノートに感想を書かせたり、ワークシートを貼らせたりし、学校の様子を家庭に知らせ、家の人からの一言を書いてもらった。

4 考察

- ミニグループでお互いのよいところを伝え合ったり、保護者からの手紙を取り入れたりしたことは、児童が周りの人から認められているということを実感することができ、自己肯定感を高めることにつながったと考える。また、保護者からの手紙で、自分のよさにさらに気付いたり、嬉しいと感じたりすることで「自分のよさを生かしていきたい」という気持ちを高めさせることができた。
- 自分なりのめあてを決めさせ、短冊に書いて掲示したことは、目標を明確にし、「自分のよさを生かしたみんなのためにできること」を意識して行動しようという気持ちを高めることができた。また、それを行動に移すことで、さらに一人一人のよさが表れ、互いを認め合う人間関係をつくることになると考える。